

(第5号に続く)

『官話文典』補遺 I

第1章の5、アメリカ国会図書館稿本、9~16頁

注意事項の5

この注意事項は、我々の文字を用いて官話を書く方法を説明するものである。官話にはいくつか [の音節] が欠けている。それは b, d, r である。q と ca は k にまとめられる。ゆえに quay、can のような語彙は k で書かれ、kuay、kan のようになる。官話には a や e で始まる音節はない。官話の音節はとても短く、多くは y, o, u から構成される。それ以外の大多数の音節はせいぜい 1 つか 2 つ、多くて 3 つの母音しかもたず、母音 e (1) で終わらなければ、n か ng で [終わる]。最終母音の ng をポルトガル人は m を使って書く。しかしこの最終母音の m は官話よりも広東語の特徴であり、官話 [音] では ng に近い。

また忠告として、最初が c で始まり、その後に s が加えられ、最後に母音がある音節、たとえば cso、csi は、これが実際の発音方法であり、語彙集にもそう書かれている。ゆえにこの文法では、c の後に h が続く音節に関して校訂を行う必要があると考えた。古い文法の多くは、cs よりも h を用いている。しかし c は実際には歯擦音として発音されていることに疑う余地はない。

同じくある写本筆記者は「仕事」を意味する su “事” のように、多くの文字を s と u で表現した。また別の写本筆記者は h をつけて shu と書いた。しかしこの 2 つの書き方は我々スペイン人にはふさわしくない。また他に csu と書いている写本筆記者もいる。この書き方は受け入れられるとしても、完璧ではなく、他のもの、たとえば csu “慈” 「慈悲」と間違えう恐れがある。szu 「仕事」という単語を完璧に書くためには、s の後ろに z を入れなければならない。

[写本] に多様性があるのは、様々な国が携わった結果である。[我々が付き合う] 各人に不便を感じさせないために、その人の [出生] 国を尋ねなければならない。そして正しく発音するためには中国人がどう単語を発音するか観察しなければならない。わたしがここで中国人と言うときには、官話であり、他の中国語の源である、南京の言葉に精通している人を念頭に置いている。しかし南京の言葉がうまく話せることは、彼らが学識ある人であることを意味するのではなく、単に彼らが南京や贛州や信豊 (2) という母語として南京の言葉と話している地方の出身であるにすぎない、という単純な事実を心に留めておくべきだ。北京と山東の言葉は [標準とは] 少し異なる。我々の語彙集は南京の言葉に忠実に従っている。

さらにここで指摘しておきたいのは、各省全市で話されている官話以外に、“郷談” (3) [お国なまり] と呼ばれる別の言語があり、これはその土地の人だけが理解する田舎ことばである。もし聖職者がある地域に選任されたなら、有能な宣教師となるためにその土地の方言も学ぶべきである。なぜなら方言の正しい知識がなければ、官話を理解しない女や農民に説教し、熱心に説き、彼らの告解を聞くことができないからだ。しかし最初から学ぶのはよくない。まず官話をかなり満足いくまで話せるようになるまで待つのが適当であり、そうする必要がある。そうすれば宣教師にとって田舎ことばを学ぶのはとても簡単で、2、3日もあればよい。この忠告に従わなければ、どちらもうまく話せなくなってしまうだろう。

これらの主題を加えるのは…… (4) この章と次の章の本質であり、その資料はこの言語では少しも難しいものではなく、今ではなくても少なくとも我々が文法をもう少し的確に知ったときに、より明瞭に表現するためのものである。

我々が音節をどう発音するかについて規則を定めるのと同じように、たとえば pintos (5) [の p は] b のように唇で発音する…… (6) のように、たとえ彼らには我々の音節が欠けており、彼らの文字はしばしば我々の音節 1 つや 2 つではなく、3 つか 4 つで構成されてはいても、中国人のように発音するために、これらの文字の発音にも規則を与える。

彼らは発音を 9 種類のモードに分けた。第 1 の“牙音”は、臼歯音を意味し、すなわち口の奥深く、臼歯部で形成される音である。これには“見”“溪”“群”“疑”がある。

第 2 の“舌上音”は、上がった舌の音を意味する。口蓋まで舌を上げて形成される音である。これには“知”“徹”“澄”“娘”がある。

第 3 の“舌頭音”は、舌先の音を意味する。すなわち舌先を少し響かせて発音する音である。これには“端”“透”“定”“泥”がある。

第 4 の“重唇音”は、強いまたは動かされた唇の音。すなわちまず唇を圧縮してから、ことばを言うために少し力を加えて唇をはずす、または開けることにより形成される音を意味する。これには“幫”“滂”“並”“明”がある。

第 5 の“軽唇音”は、軽い唇の音。軽く唇を動かして形成される音を意味する。これには“非”“敷”“奉”“微”がある。

第 6 の“邪歯頭”は、先が垂直ではない横の歯の音。前歯の先と下の歯を垂直にではなく、角度をつけて傾けて、結合することにより形成される音を意味する。これには“精”“清”“心”“邪”がある。

第 7 の“正歯”は、垂直の歯の音。歯を決して結合させず垂直に保って形成される音を意味する。これには“照”“穿”“床”“審”“禪”がある。

第 8 の“喉音”は、喉の音。喉の奥で形成される音である。これには“影”“曉”“喻”“匣”がある。

第 9 の“半舌半歯音”は、舌と歯の間で形成される音。口の中央で歯や喉につかない、よ

り中央を意味する。このモードのものには“來”“日”がある。

この問題については、この章の主題を以下の規則に従った内容から分けた方がよいかもしれない。

彼らの語彙集では声調を区別するために、“分四聲法”「四声を区別する方法」という規則を仮定した。我々が定めた第 1 声と第 2 声は、“平聲”と呼ばれ、「平らな声」を意味する。中国人は第 1 声を、[声調の]階層を変えずに、“上平”に分類した。これは「高く平ら」を意味する（そしてこれが我々の定めた第 1 声である）。そして“下平”は「低くて平らな声」を意味し、これが我々の定めた第 2 声に相当する。

両方に当てはまる 1 つの解釈がある。すなわち彼らは両者を“平道莫低昂”「下りも上りもない平らな道」(7) と言う。これは声が平らで、途切れることなく、緊張したり弛緩することがないという意味である。道である以上完全にまっすぐでなければならない。平らな道にも高いのと低いのがるように、[声は] 高くても低くても平らである。

3 つ目（彼らにとっては 2 つ目）は“上聲”と呼ばれ、「高い声」（上に述べたような平らなものではない）を意味する。彼らは“上聲高呼猛烈強”「高く力強く発音（される）高い音」と説明する。急に高く開始し、減少するにつれ少し低くなる。

4 つ目（彼らにとっては 3 つ目）は“去聲”「去り、伸ばす音」と呼ばれる。彼らは“去聲分明哀遠道”「この声調の明白な区別は長く伸ばされた道に表される」と説明する。すなわち、低く開始し、伸ばされ、少し上昇する、これは平らよりは平らではないためである。実は 1 つではないが、問題はほぼこれで完了する。

我々の 5 つ目（彼らの 4 つ目）は“入聲”「内の音」と呼ばれる。彼らは“入聲短促急收藏”「内の音（口から外に出ない音という意味で、上昇させることも伸ばすこともない）はとても短かく、口の中で加速して退き自身を隠す」と説明する。

すでに [前に] 個々の分類は行ったが、これら 5 つの [声調の] の例を、[我々が] ここまでまとめても差し支えないだろう。まず第 1 声は、人が不平を言うときにゆっくりと言う“ai” [「ああ!」] である。第 1 声はまさにこのように言われる。例：“si”，“tiên”，“風” (8) など。

(我々の) 第 2 声は、人に悪い行いをしないようお願いするときの no である。例：“No, no haga Vu <estra merced> eso.” 「いけません。どうか、あなた、そんなことをしないで。」2 つめの“no” [スペイン語の表現では「してはいけない」を指す] は、ゆっくりと言われると、第 2 声の音節の発音と一致する。例：“tiên”，“鵝”，“翎” など。

第 3 声は、元気や力がないときにつく、ため息の音である。説教者が熱情を込めて“Ay de ti.” 「かわいそうなあなた!」と言うときの“ai” のようである。または、何かがあるかどうか尋ねてきた人に、安心させる声で答えるときの“hay” 「はい、ありますよ」のようであり、このように発音されなければならない。[例]：“有米粉”。

(我々の) 第4声は、“Calle[‘] por haver me allado culpado.”「わたしが有罪と判決される事態が起こった」や、“Hay cerca de ti esta[‘] tu angel de guarda.”「あなたのそばにあなたの守護天使がいる」と言うときの、“calle[‘]”「起こる」や“ay”「いる」と同じである。“calle[‘]”「起こる」や“ay”「いる」[という表現]の後にポーズがあるのと同様に、第4声の後にもポーズがある。[例]“勵”、“害”、“辯”など。i ē ê ū ù ò è i -

第5声、彼らの第4声は、“que”「それ」によく似ている [ふざけた調子でものを尋ねた人への答え方のように、何かを説明しようとしたときに用いられる]。例：[ある人がこう尋ねる]“Juan, ai como ti fue con el toro.”「ジョン、雄牛と一緒にどうやって行くのか。」“Que, si no fuera por el arbol, me habiera muerto.”「木でなければ、わたしを殺すだろう」という答えの、“que”のように不意に話される。例：“kè”、“黒”、“墨”など。

これらの規則のほかに、彼らの語彙集には全て“開口呼”と呼ばれる、口を開けて発音されなくてはならない漢字と音がたくさん収められている。“開口呼”に属するものには tè, t è, çsò, piè, piè, yè, kiè がある。このほかに、“合口呼”と呼ばれる、口を閉じて発音されなくてはならない大きなグループがある。“合口呼”に属するものには kiün, kiün, çsü, tū, t’ü, chì, ch’ò, ch’ü があり、我々の言語できれいに発音する人の [言う] u のようである。

別の語彙集にはこのほかに、“齊齒”と呼ばれる歯音をともなって発音されなくてはならない語彙がたくさん含まれている。“齊齒”に属するものには çsè, çsy, などがある。“閉口”と呼ばれる口を閉じて発音されなくてはならないものもたくさんある。“閉口”に属するものには kiü 「行く」, çsü, などがある。これらの違いから、我々の音節の正しい発音にしたがって、点のついた声調 (すなわちそれらは全て喉音と混合音にまとめられる) を得ることができる。

これらの注意事項と、いくらかのモチベーションと大胆さに従えば、内容はより明瞭に理解できるだろう。

補遺 II

第12章、パラグラフ5、アメリカ国会図書館稿本、106～110頁

パラグラフ5 年の数え方

1. 年を数える一般的な方法は“年”(または「年」を意味するほかの言葉)の前に言いたい数を置く。例「4年」「三四年」または“四載”、「20年」「二十年」。このほかに、周期のようなどとも特殊な年の数え方があり、その使用法は次のようである。まず“甲”“乙”“丙”“丁”“戊”“己”“庚”“辛”“壬”“癸”という10の文字がある。これらの文字にそれぞれ、中国人が昼と夜の時間を数えるのに用いる12の文字(9)を、真夜中の時間を表す文字から始めて加え、順序の最初が始められる。つまり年の文字の最初は“甲”に11時から1時を

表す“子”を加えて“甲子”と言う、この語彙がこの周期の最初の年に予定される。年の文字の2つ目は“乙”に午前1時から3時を表す“丑”を加えて“乙丑”と呼ばれる。これが2〔年目〕の名前であり、こう呼ばれる（10）。年の文字の10番目まではこのように、時間の文字を対応させて書いていく。そして年の文字を10完成させると、12の時間の文字のうち〔2つ〕あまりがでるので、11番目を最初と、12番目を次の年と組み合わせて、10の年〔の文字〕を新たに始める。そして時間の文字が終わったとき次の年の文字〔が始まる〕。次の周期の最初の時間の文字は“巳”であり、年の3つ目の文字である“丙”と組み合わせられる。このようにして6周期まで組み合わせられる。これはこの中で最終的に12〔の文字〕が、最後の文字と結びつくに至り、それは全て60年という期間内に起こるのである。

つまり、最初の周期では“十干”と呼ばれる10の年の文字に対して、12の時間の文字（これは“十二支”と呼ばれる）のうち2つが残されるが、これは〔12文字のうち〕最後の2つである。第2周期では時間の文字が4つ残され、第3周期では6つ、第4周期では8つ、第5周期では10残される。これは時間の文字のうちの後の10文字である。このようにして、第6周期つまり60年で“十干”の10〔文字〕が12の時間の文字と等しくなり、“十干”の最後である“癸”が時間の周期の最後である“亥”と組合わさるのである。このようにして60年の周期が終わりを迎える。もし12の文字を10の文字と循環させて用い〔る代わりに〕、逆の〔すなわち逆に〕20の文字を置けば、この周期は100年かかることになり、10の周期となって、100年の周期となるであろう。しかしここは異国であり、彼らのシステムも異なるのである。

〔以下に〕片方に我々の年、まん中に中国語の文字、最後に年の周期〔の数〕を記入した完全な周期表を収めた。戒めの言葉として、周期をごちゃ混ぜにしてはいけない。なぜなら具体的な周期の皇帝が誰であるかについては特に注意する必要があるからである。すなわち我々は〔皇帝の名前を〕言わなければならない、その後で次の皇帝を心に留めておかなければならない。そうしないと歴史や〔それぞれが〕継承したときの正確な計算ができなくなってしまう。

文法にある表は文法が作られた年である1628年から始まっており（11）、私がいまこの〔稿本〕を写している1790年は、この周期では47年目にあたり、“庚戌”と呼ばれる。ゆえにあと13年で〔この周期の〕最後の年でもあり、“癸亥”と呼ばれる、我々〔の暦〕では1803年にあたるこの周期の60年目に達し、表を完了させることができる。ゆえに以下の表は我々〔の暦〕の1804年から始め、〔それを〕周期の最初〔の年〕とする。

1804	甲子	1	1824	甲申	21	1844	甲辰	41
1805	乙丑	2	1825	乙酉	22	1845	乙巳	42
1806	丙寅	3	1826	丙戌	23	1846	丙午	43

例 “請教” 「あなたに教えを請う」、「領命」 「命令に応じる」、「見怒」 「気を静め彼を許して下さい」。これらは数ある表現の中でもより上品なものであり、宣教師に必要とされないなら放っておかれ、心から出た言葉でなければ [言った端から] 忘れられるだろう。しかしそれらを聞くことにより、宴会で何が行われているかについてと同じように、この問題への好奇心があなたに芽生えるだろう。わたしがここで強く望み言いたいことは、わたしがこれを書いたのは我らの神と我らの聖母マリアの名誉と栄光のためであり、我らの聖なる教義の賛美と布教のためであり、このような目的のためにこの小さな冊子は書かれた。ごきげんよう。1682年2月18日福建の都にて完成する。

Finis

注

- 1) この e が i の誤りであることはほぼ間違いない。1703年版の7頁の該当箇所と比較していただきたい。
- 2) いま贛州と信豊は、江西省南部にあり、広域な客家方言地区における官話方言の孤島となっている。
- 3) 写本筆写者はこの語をコンマで2つに分けている。
- 4) 原本はここに余白があり、点がついている。
- 5) 原本は語彙に下線を引く。
- 6) 原本は点が付いている。
- 7) これと以下の“ ”の中の記述は声調についての詩からとられており、現在では1716年に出版された康熙字典の序説にみえる。原典は萬曆年間(1573-1619)の僧、真空の『篇韻貫珠集』である。(これに関して Pang-hsin Ting 教授から貴重なご意見をいただいた。)
- 8) この段落の例文は1703年版第2章の最初の箇所にも一部とづいているようであり、それをベースにすればある程度修復が可能である。
- 9) 第4パラグラフのセクション1に概説がある。
- 10) 写本筆写者の不注意によりこの語句が繰り返された。
- 11) ここで言及されている「文法」とはバロの原本であり、その完成は1628年ではなく1682年である。バロの60年周期表は1624年から始まり1683年に終わる。